ぎふの
センターだより「きずな」

埋蔵文化財

財団法人 岐阜県教育文化財団
文化財保護センター
2006.3.1
No. 45

岐阜県の埋蔵文化財情報が満載

特集 飛騨の土偶

チャレンジ考古学
縄文土器をつくろう！

考古学教室⑥ **遺跡が埋まる理由**（わけ）

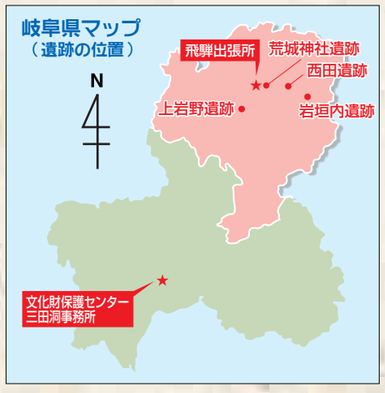
発見てんこもり **発掘調査報告2005**

ほか

特集 飛騨の土偶

土偶から飛騨の縄文文化をさぐる!!

土偶ってなあに？



縄文時代の人々が土で作った素焼きの人形を、「土偶（どぐう）」と呼んでいます。土偶は、縄文時代のほぼ全時期を通して作られ、女性のシンボルである乳房が表現されているものが多く見つかっています。

土偶は東日本に多く、西日本では少ないと言われています。飛騨地方では多くの土偶が見つかっており、飛騨の縄文文化は、東日本の縄文文化と密接につながっていたと考えられています(※)。

今回は、高山市内の遺跡で見つかった土偶を紹介します。

中央の写真の土偶
1～10は岩垣内遺跡出土
11は荒城神社遺跡出土
12～23は西田遺跡出土

土偶の頭部

岩垣内（いわがいと）遺跡（高山市丹生川町）の土偶

縄文時代中期（約5千年～4千年前）の土偶が120点見つかりました。安定した両足で立つものが多いのが特徴です。両手を上に上げてバンザイをしているようにみえるものもあります。頭は丸みをおびており、鼻がしっかりと作られていて、中には鼻の穴を表現したものも見られます。胴体の破片には、膨らんだ胸が表現されています。

土偶の胴体部

山形土偶の頭部

西田（にしだ）遺跡（高山市丹生川町）の土偶

縄文時代後期（約4千年～3千年前）の土偶が100点見つかりました。板のように薄い作りのものが多く、頭部が三角形でおむすびのように山形に盛り上がっていることから「山形（やまがた）土偶」と呼ばれます。眉（まゆ）と鼻は一続きの粘土を貼り付けて簡単に表現したものが多いのが特徴です。この形の土偶は関東地方に多く、関東地方と文化的につながっていたと考えられます。西田遺跡の土偶も、胴体の破片には膨らんだ胸が表現されています。

脚注　※飛騨地方では、縄文土器にも東日本の影響を受けたものが見られます。

バラバラにされた土偶の謎（なぞ）!?

土偶は、完全な形で見つかることは稀（まれ）で、多くの場合、頭部・胴体・手・足などの部分がバラバラになって見つかります。長い年月、土の中に埋まっていたため割れてしまったものもあるでしょうが、縄文時代の人々がわざと壊（こわ）したと見られる例も多く報告されています。

では、縄文時代の人々は、せっかく作った土偶をなぜ壊したのでしょうか。この謎（なぞ）を解くことは、「土偶はなぜ作られたか？」という問題と深くかかわる可能性があり、とても重要なポイントです。このことについて、「病気や痛みを治す呪（まじな）いをするために作り、患部（かんぶ）にあたる部分をわざと壊した」と考える学者もいます。また、女性像が多いことから、「死後の再生を願って作り、儀式（ぎしき）のときに割った」「子どもを産む女性の能力と自然の恵みとを結びつけ、豊穣（ほうじょう）を願って土偶を割り大地に埋めた」などの意見も発表されていますが、まだ結論は出ていません。

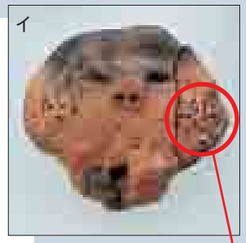
みなさんは、どう考えますか？

おしゃれな土偶

土偶の頭部を観察すると、縄文人（女性）の髪型やファッションが分かってきます。アの土偶の頭部にはロープのように巻きつけた粘土ひもがつけてあります。このことから、縄文女性が髪を編み込んでいたと想像することができます。また、イの土偶の両耳には、たくさんの小さな穴が見られます。これは、縄文女性が耳飾りをつけていた様子を表しているものと考えられます。きっと現代の女性に負けないくらいおしゃれだったのでしょう。

髪を編み込んだ土偶
（上岩野（かみいわの）遺跡 高山市清見町）

3つの資料（遺物）から想像した縄文女性

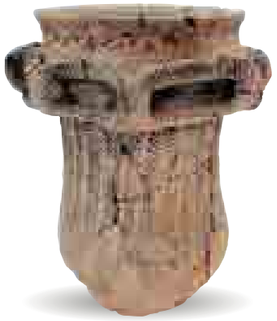


耳飾りをつけた土偶
（荒城神社（あらきじんじゃ）遺跡
高山市国府町）

土製の耳飾り
西田遺跡
高山市丹生川町

チャレンジ考古学

縄文土器をつくろう！



戸入村平遺跡の縄文土器

今から1万2千年くらい前から、日本に住んでいた大昔の人々は土で器をつくりはじめたんじゃ。これらの土の器のうちには、縄の文様がつけられたものがあり、その文様から一般に「縄文土器」と呼んでおる。

今回は、旧徳山村（今は揖斐川町）の戸入村平遺跡で見つかった左の土器をモデルに、縄文土器づくりにチャレンジじゃ。みんなも、まねしてみたい土器を見つけたり、自分で形や文様をデザインしたりして、縄文土器づくりに挑戦してみたまえ。

① 準備をしよう

縄文土器をつくるためには、まず粘土を準備しなければなりません。縄文人は、地面を掘って粘土をさがしたり、崖にむき出しになっている粘土を見つけたりすることで、手に入れました。

縄文人と同じように粘土さがしから始めるのは大変なので、ここでは市販されている野焼き用の粘土を使います。また、土器の底に敷くための麻布も準備するとよいでしょう。

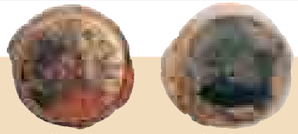
焼き物用の粘土と麻布

粘土はつくりたい土器の大きさにより2～4kg程度を準備します。

② 土器の底をつくろう

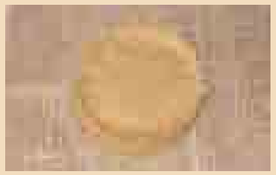
底をつくるのに必要な量の粘土で、球形の粘土玉をつくります。次に粘土玉を麻布（または大きな木の葉）の上に置き、手のひらで厚さ1.5cm～2cmの円形になるよう伸ばします。このとき、端が薄くならないよう注意しましょう。

底ができたら、粘土ひもを積みやすいよう底の端を少しだけつまみ上げておきます。



葉の跡　布目の跡

土器の底裏に見られる文様（西田遺跡　高山市）

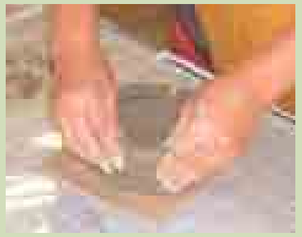


底の出来上がり！

③ 粘土ひもを積み、土器の胴部をつくろう

底の端をつまみ上げた部分の内側に粘土ひもをのせ、1回転させたら粘土ひもを切って粘土ひもの端と端をつなぎます。また、粘土ひもと底をしっかりくっつけます。

これを繰り返し、内側も外側も粘土ひもを積んだことが分からなくなるくらい丁寧につなぎ合わせます。上下の粘土ひもの継ぎ目に空気が入ると割れの原因になるので注意しましょう。



粘土ひもの輪積み

④ 土器の形を整えよう

考えていた土器の形になるように粘土ひもを積み重ねて、なでながら胴部の形を整えます。

このとき、外側を上から下になでたら、内側はその逆に下から上になでましょう。こうすることで、土器の胴部の厚みが均一になります。

理想のスタイルに

⑤ 文様をつけよう

粘土ひもで突起の飾りをつけよう

土器の形が整ったら、飾りや文様をつけます。

粘土ひもを使った突起の飾りをつけたり、縄・竹串・貝がらなどの道具を利用して文様をつけたりしながら、工夫して土器を飾りましょう。

道具を強く押し当てる場合は、土器の形がゆがまないように、土器の内側に手を当てるようにしましょう。

竹串を使って

⑥ 土器をよく乾燥させよう

日光が当たらないところで、土器を3週間ほどかけてゆっくり乾かします。

日光に当てると、表面だけが急激に乾燥してひび割れが発生してしまうので注意が必要です。

ゆっくり乾燥させよう

⑦ 野焼きをしよう（あぶり焼き）

十分に乾かした土器を火のまわりに並べて、ゆっくり温めます。はじめはやや炎から離して、その後少しずつ炎に近づけていきます。急に強く加熱すると、土器が割れてしまうので注意が必要です。

全体をムラなく温めるには、たまに土器を回転させるのがコツです。胴部が温まったら、土器を倒して底もあぶりましょう。

ゆっくり、ムラなくがコツ！

⑧ 野焼きをしよう（本焼き）

あぶり焼きで土器の表面の色が黒味がかってきたら、次は本焼きです。

あぶった土器をおき火の中に移し、周りや土器の中に薪をくべて、全体に火が回るようにします。途中で土器を横にして、底の部分も焼きます。

焼いていくうちに土器の色が赤っぽく変わってきます。これが焼き上がりの合図です。

焼き上がった土器はたいへん熱いので、取り出すときにヤケドをしないよう十分に気をつけましょう。

野焼きに必要な時間は、あぶり焼きから本焼き完了までで約3時間くらいです。

野焼きは思った以上に熱いぞ！

研究　土器の文様づくりでは、縄文人の技に習いましょう。知識と経験なしでは、縄文人に近づけません。縄文土器につけられたそれぞれの文様は、どのような道具でつけられたのか研究してみましょう。

縄文人のワザをつかもう

～縄文土器の文様のいろいろ～

おしがたもん 押型文

じょうもん 縄文

よりいともん 撚糸文

ちっかんもん 竹管文

かいがらもん に まいがい 貝殻文（二枚貝）

かいがらもん まきがい 貝殻文（巻貝）

考古学教室6

遺跡が埋まる理由

長谷川　幸志

下の写真をじっくりとご覧下さい。

写真1

傾斜した地面が、大きく波打っていることに気がつきましたか。

遺跡を調べる方法の一つに、足で歩き丹念に土地の起伏を観察したり、地面に落ちている遺物を探したりする踏査という方法があります。写真1は、高山市国府町で見つかった広瀬城跡の堀の跡で、下からの敵に攻め込まれにくくするため畑の畝のようにつくってあります。戦乱の世の姿を今に伝えており、踏査によりその存在を確認することができました。

けれども、踏査で遺跡が見つかることは少なく、多くの場合遺跡は土に埋もれているため、実際に掘って調べてみないと確認できないことがほとんどです。そもそも、遺跡はなぜ埋まるのでしょうか。

遺跡が埋まる理由としては、第一に自然の働きが考えられます。

台地や河岸段丘など平らな土地では、風で舞い上がった土や砂が積もったり、雨水が高い土地から低い土地へと流れる際に土砂を運んだりして、ゆっくりと遺跡が埋もれていくのです。こういう場合、ふつう遺跡はそれほど地下深くに埋まりません。高山市の赤保木遺跡では、現代の地表面からわずか10cm下で古墳時代の竪穴住居跡（写真2）が見つかりました。

写真2 赤保木遺跡の竪穴住居跡（古墳時代）

一方、自然の働きでも災害による場合は、遺跡が地下深く埋もれてしまいます。

揖斐郡池田町の南高野古墳は、約2.5mの厚さに堆積した砂で覆われていました（写真3）。古墳の周辺では、現在までに何十回も洪水が起きた記録が残っており、こうした洪水が運んだ土砂が古墳を覆ったと考えられます。そのおかげで、古墳は壊されることなく、ほぼ当時のままの姿で地下深くに眠っていました。

写真3 地下深くで見つかった南高野古墳

また、大垣市の今宿遺跡では、洪水で埋まった水田跡が見つかりました。この遺跡では、弥生時代から近世まで8面の水田層があり、最も古い弥生時代の水田跡は今の地表面から約2m下で見つかりました。大垣市周辺は古くから水がつきやすい低地で、河川は網目のように流れていました。こうした河川が洪水のたびに氾濫し、その周囲にあった水田を土砂で覆ったと考えられます。見つかった水田跡の中には、人が歩いた足跡の列がそのままの状態で残っていたものもありました（写真4）。おそらく何らかの農作業が行われた直後に洪水で埋もれてしまったのでしょう。

写真4 今宿遺跡の足跡の列（白い点々が大昔の人の足跡）

洪水のほかにも、地崩れ・火山の噴火などの自然災害で遺跡が埋まることもあります。いずれにしても、地下深く埋まるため、遺跡が当時の姿のまま残されている場合が多いため、考古学的にはとても貴重な資料となります。

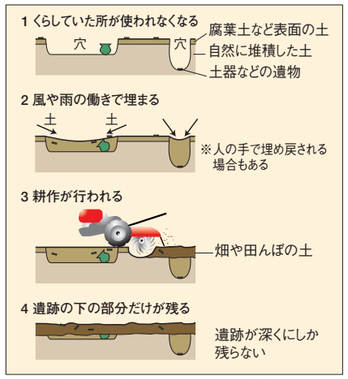


図1 耕作により削られる遺跡

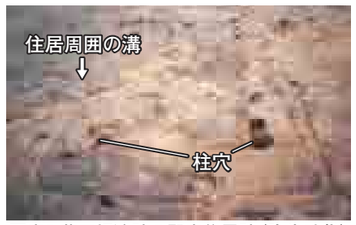


写真5 藤田坂遺跡の竪穴住居跡（弥生時代）

第二の理由としては、人の営みが考えられます。

土地が田や畑として利用された場合、耕作によって遺跡の上の方が削られて下の部分しか残らないことがあります（図1）。可児市の藤田坂遺跡で見つかった弥生時代の竪穴住居跡（写真5）は、耕作により深く削られていたため住居の周囲に巡らされた溝跡と柱穴がわずかに残っていただけでした。

このほか、新しく土を盛って土地を埋め立てる場合にも、そこにあった遺跡は人の営みによって地下に埋まります。

以上のように、遺跡は自然の働きや人の営みにより地下に埋まったと考えられます。しかし、遺跡は土に埋まることで当時の姿が保たれ、私たちに先人のくらしの様子を教えてくれるのです。遺跡は、まさに土の下に眠るタイムカプセルと言えます。

発見てんこもり

発掘調査報告 2005

平成17年度は、美濃1遺跡、飛騨1遺跡の発掘調査を行いました。

櫨原村平遺跡（揖斐川町）

縄文　中世　近世

櫨原村平遺跡は揖斐川左岸にあります。今年度は、以前に調査した西隣りを調査しました。調査の結果、中世・近世・縄文時代の遺構や遺物が見つかり、遺跡が西側にどのように広がるかが分かってきました。

中世・近世の遺構は、主に調査区の北側に広がることが分かりました。掘立柱建物跡3棟、土坑約200基を発見しました。また、中国産の磁器や火打ち金など、貴重な遺物が出土しました。

土器破片の内側を上向きに敷いた炉跡

石囲炉を持つ竪穴住居跡

縄文時代の遺構は、調査区中央から南側を中心に広がることが分かりました。竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡4棟、土坑約430基を発見しました。3軒の竪穴住居跡の中には、石囲炉や土器破片の内側を上に向けて敷いた炉跡を持つものもありました。また、住居内から見つかった土器から、それらの住居跡のうち、2軒が縄文時代中期、1軒が後期のものであることが分かりました。

野内遺跡（高山市）

弥生　古墳　古代　中世

古代～中世の水路跡・水田跡（C地点）

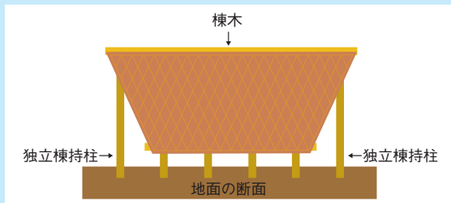
出土した木製品（ナスビ形鍬）

野内遺跡は、川上川左岸の湿地にあります。今年度は、B・C・Dの3地点の調査を行いました。

B地点では、古墳時代から古代の竪穴住居跡9軒、D地点では、弥生時代の竪穴住居跡1軒と中世の掘立柱建物跡2棟などを発見しました。C地点では、弥生時代の可能性がある独立棟持柱を持つ建物跡1棟、古代の掘立柱建物跡1棟、弥生時代から中世にかけての水田跡とそれに伴う水路跡などが見つかりました。独立棟持柱を持つ建物跡の柱穴には、6本の柱の木材の一部が残っていました。

遺物は、縄文土器や弥生土器、古代の須恵器・土師器、中世の陶磁器、弥生時代から古代の木製品などが出土しました。独立棟持柱を持つ建物跡の発見や弥生時代の木製品の出土は、飛騨地方で初めてのことです。

独立棟持柱を持つ建物跡



想像図

棟木（屋根の中央の木材）を支える柱を、棟持柱といいます。その柱が建物の外にある場合、それを独立棟持柱と呼んでいます。

センター掲示板

考古学講座 ご参加ありがとうございました！

土器の復元作業を見学

11月8日（火）8:50～12:00の日程で、考古学講座を開催しました。

聴く考古学①：「文化財保護センターって、何をしている所なの？」
見る考古学　：「整理現場を丸ごとウォッチング」
聴く考古学②：「やさしい考古学の話」
ためす考古学：「チャレンジ勾玉（まがたま）づくり」

勾玉づくりでは、まず滑石（かっせき）という石の材料に下絵を書いて糸鋸（いとのこぎり）や紙ヤスリを使って加工し、水ヤスリで丁寧に磨き上げました。「簡単そうに思えたけど、作ってみると難しいぞ」と、参加された28名のみなさんが熱中されていました。「聴く考古学」や「見る考古学」も大好評で、考古学の楽しさや、文化財保護センターの仕事ぶりを知っていただくことができました。

勾玉づくりに挑戦！

参加された方の声（参加後のアンケートより）

近所に住んでいてどんな所かと眺めていましたが、今回の行事に参加し、その内容が少し分かった気がします。もう少し見学に時間の余裕があればもっと良かったかと思いました。今後できましたら発掘現場などを見学し、少し体験してみたいと考えます。考古学が少し身近になりました。

センター日誌

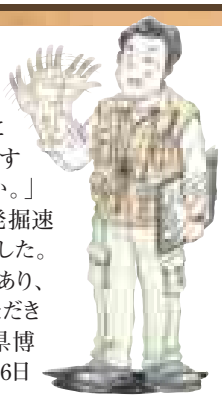
11/ 4（金）	出前授業（大垣南高校2年生31名）
11/ 8（火）	三田洞事務所にて「考古学講座」開催（参加28名）
11/15（火）	岐阜県博物館にて発掘速報展「発掘された飛騨・美濃の歴史」開幕
	船山北古墳公園にて出前授業（各務小学校6年生14名）
11/18（金）	出前授業（大垣南高校2年生31名）
11/22（火）	野内遺跡C地点調査終了
11/27（日）	発掘速報展講演会開催（参加108名）
12/ 6（火）	発掘速報展展示説明（県高等学校新任教員研修98名）
12/ 9（金）	出前授業（大垣南高校2年生31名）
	岐阜県博物館にて出前授業（相生第二小学校5・6年生19名）
12/11（日）	企画展「ひだ発掘物語」閉幕（入館者4,697名）
12/18（日）	発掘速報展「発掘された飛騨・美濃の歴史」閉幕（入館者3,952名）
12/20（火）	県民ふれあい会館にて発掘速報展移動展開催（12/26まで）
1/ 5（木）	県政資料館にて発掘速報展移動展開催（2/17まで）
1/19（木）	三田洞事務所・飛騨出張所にて消防訓練実施
1/31（火）	三田洞事務所にて整理作業見学・研修（美濃市小学校社会科研究会8名）
2/ 2（木）	ハートフルスクエアーGにてミニ展示「THE ZOO －動物の考古学－」開催（2/16まで）
	三田洞事務所にて長良中学校2年生職場体験
2/18（土）	県政資料館にてミニ展示「弥生時代の遺跡紹介」開催（3/31まで）

発掘速報展の様子

中央大学教授　前川要氏の講演

あとがき

初めて、飛騨の地（飛騨・世界生活文化センター）で企画展「ひだ発掘物語」を開催しました。新聞や地元広報誌にも取り上げていただき、多くの方に見ていただくことができました。「縄文時代の人はすごいなあ。」「飛騨の地でこんなすてきな物が見つかったのか。」と再認識される方も多かったようです。県博物館で開催した発掘速報展と講演会にも多くの方に参観いただき、ありがとうございました。12月の厳しい寒さや大雪の中、遠くから来ていただいた方もあり、ありがたいことです。今後の普及活用事業の力にさせていただきます。来年度は、特別展「縄文人って　なかなかすごい!!」を県博物館（7月15日～9月3日）と飛騨・世界生活文化センター（9月16日～10月22日）で開催する予定です。ぜひご来場下さい。



Center News

ホームページ
http://www.maibun.gifu-net.jp

三田洞事務所
〒502-0003　岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
TEL. 058-237-8550（代）FAX. 058-237-8551
e-mail : gifu@maibun.gifu-net.jp

飛騨出張所
〒509-4122　岐阜県高山市国府町名張字峠1425-1
TEL. 0577-72-4784（代）FAX. 0577-72-4690
e-mail : hida@maibun.gifu-net.jp

PRINTED WITH SOYINK　R100 この印刷物は環境にやさしい植物性大豆インキと古紙配合率100%再生紙を使用しています。